

緑化通信

2021
6月25日
(年7回25日発行)
第486号



発行所 一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577
URL: https://www.ueki.or.jp/
E-mail: honbu@ueki.or.jp



購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

連絡調整会議を開催

執行部と各部長等で円滑に事業を行うために議論しました。

今年度の連絡調整会議が、5月20日(木)13時から協会会議室及びリモートにより、会長、副会長、部会担当理事、ブロック長、専門部会(含青年部会長)及び事務局が参加して開催された。

会長挨拶の後、左副会長が議長を務め、各ブロック、部会から活動報告、意見・要望につきましましては次のとおり。なお同様のもものは、まとめてます。

1 各ブロックの提案事項等について
※北海道・東北ブロック
(1) 供給可能量調査で探したい場合は、すぐに協会で探して欲しい。
答 供給可能量の検索については、携帯端末により調べてもらいたい。データが公表されるまでに数ヶ月要することから、調査対象となる樹木が検索出来ない場合もある。



対面とリモート会議

※関東・甲信越ブロック

(1) 協会の経営の立て直しは、まず交通費支給の原則により、会長、副会長、部会担当理事、ブロック長、専門部会(含青年部会長)及び事務局が参加して開催された。今年度、協会再建策を検討していく上で、過去からの経緯等もあり難しい問題と考えるが、ご意見とお見直しも検討して行かなければならないと考える。

※中部ブロック

(1) 2025年日本国際博覧会(大阪)、2027年横浜国際園芸博覧会について何か新たな情報や関連団体等との情報交換などが行われているのであれば、会員への発信を希望する。

※西ブロック

(1) リモートを活用した会議を促進してほしい。不慣れな会員も多いのでマニュアル作成、指導員設置等をお願いしたい。(同様の質問あり)

※九州ブロック

(1) 福岡県支部 公益目的支出計画が終了し、財政的にきびしくなるので収益事業を考えると、当社で対応出来ない商品ではないでしょうか。

輸出に係る...の案件についてですが、現実には会員の皆さまに伝わりきれいなページを見て対応出来る業者を探してほしいと伝えてもよいか。

品や、遠方で対応が難しい場合、顧客に協会のホームページを見て対応出来る業者を探してほしいと伝えてもよいか。

協会本部の中で、役員経験者は理解していると思いが、経験していない人は解りづらい。

役員人選にも苦勞している。

支部・ブロック・協会の会議の方法等を検討していきたい。

過去に行ったことのない取り組みで、ある意味斬新的なアイデアかと考えます。

今後、協会運営を行って行く上でも会員の皆さまの意見を聞く上でも有効かと考える。

経費の削減とはいえず、今後の柔軟な対応をお願いします。

コロナ禍で、リモートを活用した会議が多い状況となっており、結果的に経費の削減につながっている状況と考える。今後コロナ禍や経費削減等の理由を考慮しますと、リモート会議が浸透すると考えるが、場合により協会にて対面での会議を行っており、今後も柔軟な対応を行って行きたい。

総会報告事項である「全国花き輸出拡大協議会...」中国向けイヌマキ

今後、協会では全社員のメールアドレスの把握も十分でないことから、把握の実施を行いたいと考えている。

なお、指導員設置等につきましましては、現在、事業が発生した場合は電話により個別に対応しているが、業務等の関係から現段階では難しいと考える。

理事が決められたことは、一般会員に十分説明出来るようにしてほしい。

理事で事業を始める場合は、詳細を十分精査してからにしてほしい。

各省など造園関係各課へ行って、植木の使用が増えるようお願いして欲しい。

コロナ禍の終息が見えない中での陳情となると難しいと考える。なお、陳情の際には、陳情先等から予算確保に向けた具体的な方法について聞かれると思えますので、具体的事例等をまとめておく必要があると考える。

中国・四国ブロック 文書総会について 総会資料が来るまでが遅く、届いたら返信要求の期間が短かった。

植木に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

植物に関心のある一般会員を広く募集してはどうか。(サポーター的なもの)

広く会員を募集することについては、定款第5条2号にある「賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した団体又は個人」との兼ね合いをどのようにしていいのかを検討していかねばならないと思えます。

ホームページ・Youtube等のSNSをもっと活用してはどうか。

ホームページ等の活用方法についても検討していかねばならないと考える。

ホームページに向けてメールでの配信にて情報交換を促す。

他ブロックでも同様の意見ですが、協会では各社

今後、会員の減少等により一層財政的に厳しくなるものと考えられ、収益事業を進めていくことを考えて行かなければならない。

緑育活動、識別検定、植生アドバイザー等を行うための財源確保は必要だとする。

長年行ってきた各種事業でありこの事業を今後も続けて行くためには、財源の確保が必要のため、今後、どのように財源を確保して行くか等の検討が必要と考える。

進会員制度を復活させて、後継者育成を推進するべきだと考える。

過去に進会員制度がありました。詳細につきましては現在確認中。

園さんのメールアドレスを十分把握していないことから、まずは把握の実施を行いたいと考えています。

② 鹿兒島支部

① 世間の流れが早い。緑化業界もその流れに遅れないようにしないといけない。

② 機能性植物の研究と生産販売を考える会があればいいと考えています。

③ 消費地と生産地のつながりがもっとあっても良い。情報交換等。

④ 植木の販売単価が安く利益が出ない。高齢化、後継者不足で数年後はどうなるのか大変不安。

⑤ 生産者もですが特に流通業者には頑張って利益をあげてもらいたい。各地域の存続がかかっている。

⑥ 協会は思い切った事業削減を打ち出すべきだと思います。

⑦ コロナ禍で世の中が大きく変わってきた。植木業界も変化を敏感に感じ取り、変わっていくべきだと思います。

答 貴重なご意見ありがとうございます。今後、この検討の方法について、理事会で行うのか、又は、この問題に特化した委員会を設けるのか等の検討を行い、それに基づいて協議して行かなければならないと考えています。

2 各部会の提案事項について

【コンテナ部会】

① 現代社会で問題となっている地球温暖化、CO₂削減に、協会の特質を生かして活動が出来ないだろうかと。② 植物を生産し、それを軸とした産業活動を業とする植木協会として、環境問題に取り組み姿勢を世間にアピールして行くことについて。③ キーワードは、SDG Sの持続可能な開発目標の中で、我々に最も関連する「目標15・森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止及び逆転、並びに生物多様性損失の阻止を図る」とあり2030年が達成期限になっている。

した活動が出来ないだろうかと。② 植物を生産し、それを軸とした産業活動を業とする植木協会として、環境問題に取り組み姿勢を世間にアピールして行くことについて。③ キーワードは、SDG Sの持続可能な開発目標の中で、我々に最も関連する「目標15・森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止及び逆転、並びに生物多様性損失の阻止を図る」とあり2030年が達成期限になっている。

④ 具体的にするか

⑤ 専門家をまねいた勉強会(SDGs)からの様な行動が出来るか検討して行く。1年程度で数回の開催をしたい。

⑥ 特に、青年部会に積極的に参加をお願いしたい。

⑦ 又、現在活動中の、緑育、植生アドバイザー、地域性種苗、緑化樹木識別試験をSDG sに絡めた戦略で広報して行く。

⑧ 現時点では、コロナ終息後の活動になると思いますが、勉強会は、リモートで可能ですので年内開催を期待します。

是非とも、理事会で検討していただきたい。

【庭園樹部会】

庭園樹部会からの提案事項

① 名木認定委員会について

② 総会や会費について

③ 事務局員の配置について

④ 青年部会について

(1) 協会から委任されている名木認定であるが、年々名木認定の希望も減ってきており、名木が出されない年もあり、2〜3年に1回の実施でも良いのではないかと。

(2) 現在、第1次審査において、申請書並びに写真等による適格審査後、所在地において審査員が第2次審査を行っているところであるが、審査員の交通費等の問題もあり、認定方法の変更等を行うことはどうか。

例として、審査員の中で、1〜2名が現地に赴き、ズームにより動画を撮影しそれを各審査員が見ながら審査を行う等もあるが、名木申請がなされた近県等の庭園樹会員が審査を行う方法もあるのではないかと。

答 庭園樹部会から(案)を提出してもらい、理事会で検討してまいります。

【新樹種部会】

① 要望事項

② 環境省みどり香るまちづくり企画コンテストについて

③ 残念ながら前年度分が最終年度であったと聞いております。これに代わる企画がありましたら教えてください。

④ 協会や会費について

⑤ 協会の総会が書面決議になった場合には準備事項が想定されます。準備も早いので早めの通知をお願いします。

⑥ 決まり次第通知する。

⑦ 事務局員の配置について

⑧ 青年部会について

(1) 協会の交通費だけを考慮するのは無く、協会で行っている事業等も含めて全体で見たいと思います。回数が多い人については負担が必ずある。事業の圧縮も必要だと考えます。

(2) 自己負担やブロック負担は無理である。会議に出席するにも遠方だと朝早くから夜遅くまでと逆に日当りも出しても良いのではないかと。

(3) 植木協会の事業の見直しが必要である。例えば供給可能調査委員会の未掲載樹木等はどうか。

(4) このコロナ禍の状況で厳しい状況は続くと思えます。何か共有できる補助金、助成金などがあれば協会から発信して頂きたい。

答 令和3年度予算について、今後、農林水産省から案内が来ると考えております。共有できる補助金等が未掲載樹木については、物価に掲載される以外の樹木の価格を協会が提出して有意義な事業だと考えたい。

③ その他 意見を含め

(1) リモート会議が活用されているが、実施することによって、これにかかる試算は行っているのか。

答 6月に今年度前半の監査があることから、そこでどの程度減少しているのかの数字は出てくるものと考えています。

(2) 交通費は半額支給との意見もあるが、ブロックからの補助は人数の少ないブロックもあることから、検討していかねばならないと思います。当然のことであるが、交通費の実費。日当も負担しないと、理事のなり手がなくなると。

(3) 役員は事務局長ではないかと。一般事務局員の配置転換の検討をお願いします。

答 事務局員も他の配置がある中で、引き続き事務局長での対応をお願いしたい。

(4) 議事録作成について

(5) 担当事務局が議事録を作成することとする。

(6) 青年部会減少の為に、6ブロック統合をし、現在4ブロックでの活動をしている現状です。ぜひとも、後継者育成のためとして、子弟がいる社団さんには青年部に入部してもらい積極的に働きかけて欲しい。

答 会員減少の中で、後継者育成は重要なことと考えております。後継者育成のためにも働きかけを行っていきたく。また部会として仲間確保のための努力をお願いいたします。

(7) 今後の青年部会としての活動は未だに厳しい状況下であり、後継者育成事業としての活動資金として、同額助成金を継続して頂きたい。

答 これからの協会を背負っていく後継者(青年部)の活動育成は重要と考えており、青年部への助成については厳しい財政状況にはあるが、できる限りの協力を行って行きたいと考えています。

(8) 今後の全国花き輸出拡大協議会の事務局運営についての詳細な部分を教えてください。回数が多すぎるとは思いますが、今後、青年部会から親協会にあがられる方もいますので、青年部会での説明会を開催して頂きたい。

答 各ブロックにおいて開催して頂きたい。

(9) 自己負担やブロック負担は無理である。会議に出席するにも遠方だと朝早くから夜遅くまでと逆に日当りも出しても良いのではないかと。

(10) 植木協会の事業の見直しが必要である。例えば供給可能調査委員会の未掲載樹木等はどうか。

(11) このコロナ禍の状況で厳しい状況は続くと思えます。何か共有できる補助金、助成金などがあれば協会から発信して頂きたい。

答 令和3年度予算について、今後、農林水産省から案内が来ると考えております。共有できる補助金等が未掲載樹木については、物価に掲載される以外の樹木の価格を協会が提出して有意義な事業だと考えたい。

(12) リモート会議が活用されているが、実施することによって、これにかかる試算は行っているのか。

答 6月に今年度前半の監査があることから、そこでどの程度減少しているのかの数字は出てくるものと考えています。

(13) 交通費は半額支給との意見もあるが、ブロックからの補助は人数の少ないブロックもあることから、検討していかねばならないと思います。当然のことであるが、交通費の実費。日当も負担しないと、理事のなり手がなくなると。

(14) 役員は事務局長ではないかと。一般事務局員の配置転換の検討をお願いします。

答 事務局員も他の配置がある中で、引き続き事務局長での対応をお願いしたい。

(15) 議事録作成について

(16) 担当事務局が議事録を作成することとする。

(17) 青年部会減少の為に、6ブロック統合をし、現在4ブロックでの活動をしている現状です。ぜひとも、後継者育成のためとして、子弟がいる社団さんには青年部に入部してもらい積極的に働きかけて欲しい。

答 会員減少の中で、後継者育成は重要なことと考えております。後継者育成のためにも働きかけを行っていきたく。また部会として仲間確保のための努力をお願いいたします。

(18) 今後の青年部会としての活動は未だに厳しい状況下であり、後継者育成事業としての活動資金として、同額助成金を継続して頂きたい。

答 これからの協会を背負っていく後継者(青年部)の活動育成は重要と考えており、青年部への助成については厳しい財政状況にはあるが、できる限りの協力を行って行きたいと考えています。

(19) 今後の全国花き輸出拡大協議会の事務局運営についての詳細な部分を教えてください。回数が多すぎるとは思いますが、今後、青年部会から親協会にあがられる方もいますので、青年部会での説明会を開催して頂きたい。

答 各ブロックにおいて開催して頂きたい。

(20) 自己負担やブロック負担は無理である。会議に出席するにも遠方だと朝早くから夜遅くまでと逆に日当りも出しても良いのではないかと。

(21) 植木協会の事業の見直しが必要である。例えば供給可能調査委員会の未掲載樹木等はどうか。

(22) このコロナ禍の状況で厳しい状況は続くと思えます。何か共有できる補助金、助成金などがあれば協会から発信して頂きたい。

(23) 役員は事務局長ではないかと。一般事務局員の配置転換の検討をお願いします。

答 事務局員も他の配置がある中で、引き続き事務局長での対応をお願いしたい。

(24) 議事録作成について

(25) 担当事務局が議事録を作成することとする。

(26) 青年部会減少の為に、6ブロック統合をし、現在4ブロックでの活動をしている現状です。ぜひとも、後継者育成のためとして、子弟がいる社団さんには青年部に入部してもらい積極的に働きかけて欲しい。

答 会員減少の中で、後継者育成は重要なことと考えております。後継者育成のためにも働きかけを行っていきたく。また部会として仲間確保のための努力をお願いいたします。

(27) 今後の青年部会としての活動は未だに厳しい状況下であり、後継者育成事業としての活動資金として、同額助成金を継続して頂きたい。

答 これからの協会を背負っていく後継者(青年部)の活動育成は重要と考えており、青年部への助成については厳しい財政状況にはあるが、できる限りの協力を行って行きたいと考えています。

(28) 今後の全国花き輸出拡大協議会の事務局運営についての詳細な部分を教えてください。回数が多すぎるとは思いますが、今後、青年部会から親協会にあがられる方もいますので、青年部会での説明会を開催して頂きたい。

答 各ブロックにおいて開催して頂きたい。

(29) 自己負担やブロック負担は無理である。会議に出席するにも遠方だと朝早くから夜遅くまでと逆に日当りも出しても良いのではないかと。

(30) 植木協会の事業の見直しが必要である。例えば供給可能調査委員会の未掲載樹木等はどうか。

(31) このコロナ禍の状況で厳しい状況は続くと思えます。何か共有できる補助金、助成金などがあれば協会から発信して頂きたい。

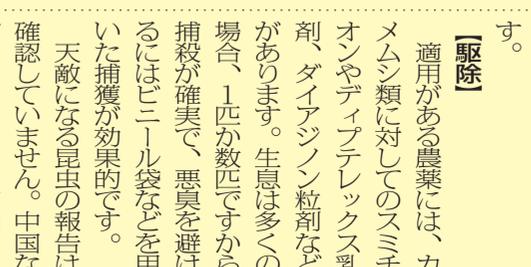
特集 植木類に被害する外来病害虫・東京周辺の事例③

キマダラカメムシ

樹木医 小林 明



キマダラカメムシの成虫9月・あきる野市



キマダラカメムシの幼虫7月・福生市

●キマダラカメムシ
害虫と呼べるか、? マー
クが付く昆虫です。一般的
に「書虫」は農作物を食害
したり、病気を誘発したり
することで経済的な被害を
与えます。私たちの生活に
関わりなく木々を食べてい
る昆虫は、書虫と呼ばれ
ません。この点から見てキ
マダラカメムシは、樹液を
吸汁しますが樹勢の衰退や
大量発生による不快感など
顕著な被害例の報告はほと
んどありません。樹液を吸
うセミ類と同じ科に属し、
あえて書虫とよぶのであれ
ば、カメムシ特有の悪臭を
放つことを見かけの不気味
さによる不快害虫でしょう
か。
筆者が東京都内で初めて
見たのは、数年前のこと
ですが、2010年ごろには
生息が確認されています。
確認数が少なかったため
か、数年前まではインタ
ネットで文献を検索しても
数件程度の掲載でした。そ
の後、観察報告などを含め
て掲載数が増えています。

生息が増加し、次第に関東地方に広がってきています。これまでのところ、東北や北海道などの寒冷地では報告がありませんが、温暖化の傾向もあって北上する可能性もあります。

【特徴】
成虫の体長は2cmほどで、カメムシの仲間としては大型の部類です。背中の色が黒地に黄褐色のまだら模様で、キマダラの名の由来になっています。このまだら模様は、樹皮の色合いに合わせた地味な保護色で、見逃してしまいがちです。幼虫は背中が赤褐色の小さな斑点状の模様と黒点があります。口吻は大径木が少なくハナミズキの場合、産卵や複数回の吸汁の報告があります。

発生は関東地方の場合、6〜10月までで幼虫と成虫を同時期に見ることもあります。同じ場所に大量発生することはまれで、多くても1本の木に数匹程度です。

【駆除】
適用がある農薬には、カメムシ類に対してのスマチオンやディプレックス乳剤、ダイアジノン粒剤などがあります。生息は多くの場合、1匹か数匹ですから捕殺が確実で、悪臭を避けるにはビニール袋などを用いた捕獲が効果的です。天敵になる昆虫の報告は確認していません。中国など原産の外来種と同じカメムシ科のヨコヅナサシガメがサクラ類と同じ木にいます。このサシガメは他の昆虫の体液を吸いますが、キマダラカメムシを襲っている現場は見ることがありません。



ヨコヅナサシガメ (赤いのは脱皮中5月・大阪市)



ヨコヅナサシガメ (赤いのは脱皮中5月・大阪市)

地方から版

私の「牧野植物園」ツアー

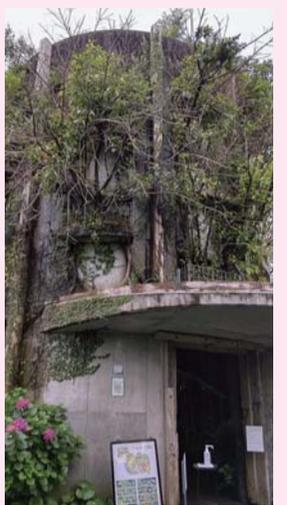
恒石 昌夫 (福岡県農園・高知県)

地方から版というタイトルからして地方ならではの文章を書かなくてはならない。この記事を書き始めました。

この地方高知県で仕事柄大変役立っているのが世界的な植物学者・牧野富太郎博士が高知県出身で博士の業績を顕彰するため開園した「高知県立牧野植物園」があること。牧野植物園さんと少し取りもさせて頂き荷物の納品で伺うことがありますがそのたび必ず園内を一周します。



写真① 'ホシザキカンアオイ' キガ広がり、竹の中庭を構図の建物が開放的な雰囲気でも気持ちの良さもある場所です。ここではウッドデッキフェンスに這わせてある、サカキカズラ、の照り葉の美しさ、独特の種の形を見ながら進んでいきます。写真②



写真⑤壁面の 'アコウ'



写真⑥ 'ヒスイカズラ'

この後普通に順路通りに進みますが一度本館内に入り、Fに降りて図書室に入ります。この図書室から見る2m以上はある、ラセイタマアジサイの姿とその足元に植栽されている、ボシケイラン、やガゼンゼキラン、の雰囲気がとても好きです。

次に順路に戻り2019年3月にオープンした「こんこん山広場」に上ります。「草原エリア」「花木類のエリア」「芝生広場」の3つのエリアが楽しめる広場になって特に「花木類のエリア」に植栽されている、ウライツツジ、ギンモウツツジ、ナカハラカエデ、アリスアンアラカシ、イサオツツジ、ダイワヤマツツジ、ヒイラギスイナ、等個性豊かな台湾産の植物を観察できます。ここではもう一つ特典があります。植物園の南園や温室を望める展望デッキが設けられ、ここから見る植物園の景色が一番好きです。写真③

次に「牧野富太郎記念館・展示館」へ進んでいきます。「牧野富太郎記念館・展示館」の中庭には、博士ゆかりの植物が植栽されています。博士が命名した植物をはじめ、植物図に描いた植物、こよなく愛した植物、交友のあった人物にまつわる植物など、約50種にのぼるこれらの植物や展示を通して、博士を身近に感じることができると説明されています。ここでは、トサノミツバツツジ、フジツツジ、ギンツツジ、シロバナキシツツジ、オウツツジ、シロバナオウツツジ、シロバナナオンツツジ、や、ここから続く「北園」まで、つづじ園には、モチツツジ、

写真④展示館の中庭

ザクラツツジ、コバノミツバツツジ、ギヨクスミミツバツツジ、マルバサツキ、等がゆっくりと春から初夏に向けて咲いていき、毎週通ってもその度花を葉にさせてもらえます。写真④

少し脇道に入った見晴らし台裏には、ヒメシャリンバイが植栽されています。ただ私たち緑化でよく使っている種とは明らかに違います。説明書には「牧野富太郎は1902年に植物学雑誌において、小石川植物園に植栽されていた株から採集した」と記載されていました。どうなのでしょう？

順路の植物を見ながら歩いてくと散策を兼ねた最後、園内でも人気が高い温室に向かいます。温室の入口は大木の洞窟をイメージした高さ9mの塔になっており、壁面に熱帯植物の「アコウ」が植栽され、何年後には「アコウ」に建物が入り込んでしまいうる。洞窟ドーム中心には巨大な、リュウビンタイが植栽されています。高知県には、リュウビンタイの自生している場所があり観察しに行くと、有りながらも成長の遅さを観察するとこの大きさに驚きます。写真⑤

熱帯さながらの室内では、国内外から集めた貴重な植物や鮮やかな熱帯花木、熱帯果樹などを一年中楽しめます。順路途中にある階段デッキを上ると

「ヒスイカズラ」が花を咲かせています。この花の色は写真では伝えられない程の美しさ、独特の色合いをしています。写真⑥

今回は個人的な「牧野植物園」ツアーでしたが、かなり短縮したコースを回りましたので所要時間1時間30分ほどでした。展示室や細かく散策すると平日以上かかりますので来園される時はしっかりと時間を取って来て下さい。



岩手県宮古市区界高原にて(2009年5月24日)

素描挿話。
~すてきな花達に魅せられて
⑤スズラン
小岩井農牧(株) (岩手県)
足澤 匡

君影草(キミカゲソウ)とも呼ばれる「スズラン *Convallaria keiskei*」は、とても清楚なイメージの花です。通常庭先の花壇などで見かける大きくて、元気なスズランは、正式名「ドイツスズラン *Convallaria majalis*」で、ヨーロッパ原産です。では、日本に自生するスズランはどこで見ることができるのでしょうか？

スズランの自生分布は、本州中部以北、東北、北海道の高地となっていますが、そんなに簡単に見つけることができません。このスケッチを描いた時も区界高原で偶然出会うことができました。環境の変化や乱獲などにより、減少していると思います。さらに日本のスズランはドイツスズランとは異なり、大きく目立つ花ではないのです。花の構造は同じですが、葉の下に隠れて清楚な花をひっそり咲かせます。あなた(君)の影にそっと咲く。君影草の由来です。なんてロマンチックな由来なんでしょう。ヘクソカズラとは大違い。ヘクソカズラの由来は聞くも涙、語るも涙ですよ。

そんな楚々とした目立たない花ですが、受粉を助ける昆虫(ハナバチの仲間など)が存在します。スズランの花が咲く頃、周辺の植物は開葉し緑一色になりますので、逆に白い花が目立つのです。それから、もう一つのスズランの戦略は、香りです。目立たない花の場合、昆虫を呼ぶ戦略としては、香りは有効です。さらに、スズランの場合には、自分から来て欲しい昆虫を選んでいるのです。一個の花の形は、スズランの名の通り、小さな鈴の様な壺形をしています。開口部の縁をよく見ると、反り返っている所が6ヶ所あります。この反り返っている所に足を掛けぶら下がり、花粉や蜜を集めるハナバチの仲間を優先的に選んでいることになります。

ちなみに、スズランは毒草で、花や根に有毒物質を含みます。スズランを活けた花瓶の水でも中毒を起こした事例があるそうです。花瓶の水は基本的に飲みませんが・・・危険ですので、お子さんのいるご家庭、ペットなどにも注意が必要です。毒草の蜜を集めるミツバチやハナバチの仲間は、中毒を起こさないのですかね・・・変なことが気になります。自然って、本当に不思議！ だから、楽しいです。

地球に優しく、植物にも優しい
生分解性 biopot

green support

株式会社 グリーンサポート
大阪府貝塚市三ツ松 688-3
TEL 072-447-0112 • FAX 072-447-0133
HP: <http://www.green-support.com>

あなただけの本を作ませんか？

あなたの夢・あたためている作品を形にしてみませんか？
皆さまの本作り準備から納本まで誠意をもってお受けします。

関東図書株式会社
〒336-0021 さいたま市南区別所3-1-10
TEL 048(862)2901 10 FAX 048(862)2908 10
0120-161092
<http://kanto-t.jp/>

●自分史・写真集・画集・歌集・句集・詩集・小説・随筆 他をお考えの方は、どうぞお気軽にご相談下さい。編集スタッフが、お相手します。
●ISBN(国際書籍コード番号)もとれます。
●他にも、HP・動画・AR等、なんでもご相談ください。

連載「東アジアの高山植物」

第3回 「風衝草原」

東京農業大学名誉教授 中村幸人



◆プロフィール 中村 幸人(なかむら ゆきと)
1952(昭和27)年3月生 東京農業大学名誉教授(博士 理学)
専門:植生学、植物地理学、景観生態学
神奈川県鳥獣総合対策協議会委員、神奈川県公共事業評価審査会委員、国際植生学会群集命名規約委員会委員 他
横浜国立大学助手、作新学院大学教授を経て平成14年より東京農業大学教授



写真1. 青海省の高山帯で草をはむヤク(毛牛)。草原には Kobresia pygmaea, K. humilis, K. cristata などのヒゲハリスゲ属が優占している(海拔3200m)。



写真2. ヒゲハリスゲが出現すれば、間違いなく風衝草原です(南アルプス北岳)。



写真3. カムチャツカ半島で高山帯の調査の後の宴。スペインマドリード大学の Salvador Rivas-Martinez 教授。



写真4. 風衝草原の相観、オヤマノエンドウ、ハクサンイチゲ、チシマアマナ、ミヤマキンバイ、チョウノスケソウなどが見られる(南アルプス北岳山頂域)。

ハハコヨモギ、キタダケソウ、白馬岳にはツクモグサ、ミヤマアケボノソウなどの種も出現しています(写真5~7)。また、杓子岳に向かうコルは日本海

からの季節風が通り抜けるため極めて風当たりが強く、条線土という高山帯に特徴的な構造土が発達しています。昼夜の気温格差による凍結融解作用によって膨張収縮が繰り返され、中礫の帯と砂や小礫の帯が交互に現れるようになります。安定した中礫の帯には風衝草原が定着し、不安定な砂や小礫の帯にはウルップソウ、コマクサ、タカネスミレなどの荒原の植物が現れます。

北海道の大雪山にはエゾオヤマノエンドウ、エゾハハコヨモギ、エゾタカネツメクサなど、本州との地理的な隔離によって変種の関係にある種が見られます。もちろん、チシマギキョウ、チシマアマナ、ムカゴトラノオのように共通する種もたくさんあり、北方の大陸に連続していきます。風衝草原の種は北方に由来する種が多く、洪積世に繰り返された氷期に北方よりもたらされたと考えられています。その多くは周北極要素と呼ばれ、現在も北極を取り巻くように高緯度地方に分布しています。中緯度では高山に隔離されて分布しますが、氷期に南下して、間氷期に高山に取り残されていたとされ、中部山岳もその例でしょう。

風衝草原は典型的な北方系の植生なので、北に行けば行くほど多様な風衝草原を見ることができると考え、サハリンからカムチャツカ半島に出かけました。ロパチナ山(1609m)を最高峰とするサハリンでは山頂域までほぼ、ハイマツ帯で山頂域に少し高山植生が見られる程度です。そこには冠毛だけのヒトツバオキナグサがありました(写真8)。カムチャツカの高山はすべて火山で、3000m級の山が連なり、海拔1200mから正真正銘の高山帯に達します。しかし、訪れたトルバチク山(3682m)では火山でもあるせいか、風衝草原は豊かではありませんでした。最終氷期には不毛の氷雪帯でしたから、今の植生が温暖化に伴って戻ってきたばかりと考え、むしろ氷期に日本などの中緯度に南下して、その後、高山に取り残された植生のほうが豊かなのかもしれないですね。

北岳の北岳山荘から山頂に向けた風衝斜面、白馬岳周辺と杓子岳に向かうコル(鞍部)にはオヤマノエンドウ、ムカゴトラノオ、タカネシオガマ、チョウノスケソウ、ミヤマツメクサ、タカネツメクサ、チシマギキョウ、チシマアマナ、トウヤクリンドウ、ヒゲハリスゲ、オノエスゲ、ヒゲナガコメスキ、そして北岳にはシラネヒゴタイ、

からの季節風が通り抜けるため極めて風当たりが強く、条線土という高山帯に特徴的な構造土が発達しています。昼夜の気温格差による凍結融解作用によって膨張収縮が繰り返され、中礫の帯と砂や小礫の帯が交互に現れるようになります。安定した中礫の帯には風衝草原が定着し、不安定な砂や小礫の帯にはウルップソウ、コマクサ、タカネスミレなどの荒原の植物が現れます。

北海道の大雪山にはエゾオヤマノエンドウ、エゾハハコヨモギ、エゾタカネツメクサなど、本州との地理的な隔離によって変種の関係にある種が見られます。もちろん、チシマギキョウ、チシマアマナ、ムカゴトラノオのように共通する種もたくさんあり、北方の大陸に連続していきます。風衝草原の種は北方に由来する種が多く、洪積世に繰り返された氷期に北方よりもたらされたと考えられています。その多くは周北極要素と呼ばれ、現在も北極を取り巻くように高緯度地方に分布しています。中緯度では高山に隔離されて分布しますが、氷期に南下して、間氷期に高山に取り残されていたとされ、中部山岳もその例でしょう。

風衝草原は典型的な北方系の植生なので、北に行けば行くほど多様な風衝草原を見ることができると考え、サハリンからカムチャツカ半島に出かけました。ロパチナ山(1609m)を最高峰とするサハリンでは山頂域までほぼ、ハイマツ帯で山頂域に少し高山植生が見られる程度です。そこには冠毛だけのヒトツバオキナグサがありました(写真8)。カムチャツカの高山はすべて火山で、3000m級の山が連なり、海拔1200mから正真正銘の高山帯に達します。しかし、訪れたトルバチク山(3682m)では火山でもあるせいか、風衝草原は豊かではありませんでした。最終氷期には不毛の氷雪帯でしたから、今の植生が温暖化に伴って戻ってきたばかりと考え、むしろ氷期に日本などの中緯度に南下して、その後、高山に取り残された植生のほうが豊かなのかもしれないですね。



写真5. 中部山岳の風衝草原の代表選手、オヤマノエンドウ(南アルプス北岳山頂域)。



写真6. 氷河の指標植物と言われるチョウノスケソウ(南アルプス北岳)。



写真7. 花が咲かないと目立たないユリ科のチシマアマナ(南アルプス北岳)。



写真8. サハリン第二最高峰のヒトツバオキナグサ; Miyakea integrifolia、学名に三宅勉の名があるが、宮部金吾とともに「樺太植物誌」を著した。

カジムラファーム母樹園で、品種(約30種)ごと開花時期を調査

オリーブは日本に自生する植物ではないので分からないことが多いです。スペインだと「この2つの品種を植えれば受粉して実がなりますよ」と言われても、日本だと気候も地質も違うので開花時期も全く同じになるとは限りません。オリーブの開花時期は1週間~10日位しかないので、前後3、4日ずれたら受粉確率が大幅に下がってしまいます。ですから全ての品種の開花時期を母樹園に毎日 AM10時に行き調べて、日本の気候や風土での開花時期の観察をしました。

適地適作と栽培可能地域の違い

オリーブは、日本が適地ではないけれど、工夫をすれば実はあるということを知ってもらいたい。他の果樹でも、例えば山形の佐藤錦の苗を九州地区に持ってきても同じように立派な実はなりにくい。今40種類近くの母樹園を管理していると、その土地にあった管理と品種の選択が必要だと感じます。テレビや書店でも、このオリーブの品種はフルーティー、ナッツの香り、パスタ料理にとっても合う等色々といわれていますが、気候風土の異なる日本では全く同じ品質にはなりにくいと思います。まずその土地に合う品種の選択と栽培管理の確立が重要と思っています。

最後にオリーブにこだわり続けた社長を支えてた奥さんと梶村社長の会話

晶子さん:「夫は根っから熱い人なんです。1つを始めると集中して納得いかないと止めないんです。考えすぎて寝れない日もあって、もうやめてよ! って言ったこともありましたが(苦笑)」。…奥様が陰ながら支えている気持ちがよく分かりました。

梶村社長:「もう少し頑張らなくちゃいけないな(笑)。ちなみに、うきは産オリーブオイル酸度0.18以下、このレベル分かりますか、世界一かも? 今度10月頃母樹園に来て、フレッシュな香り高いオリーブオイルを試してくださいよ。…はい! 楽しみがまた1つ増えました。

※詳しくは(有)カジムラファーム HP をご参照ください。 kajif-m.com

地球にやさしく、植物にちから強く。豊かなグリーンライフを提案します。

●コーティング肥料

ハイコントロール。マイスター。ニュートリコート。

●緩効性肥料

ユーバー。ウッドエース。IBワンス。



●芝・緑化用肥料

カントリーホスカ。グリーンホスカ。グリーンベース。パーディー。肥料

●打ち込み肥料

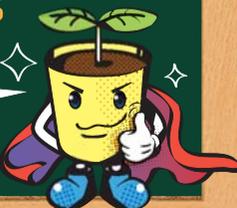
グリーンパール。

発売: JCAM ジェイカムアグリ株式会社 グリーンビジネス部

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2丁目6番6号 TEL.03-5297-8910 FAX.03-5297-8908



農業資材のことなら東海化成にお任せ下さい! ご要望・お困り事 何でもご相談下さい!



ホリポット

株式会社東海化成

代表取締役 景山 昌治

〒501-3714 岐阜県美濃市曾代 66 TEL 0575-33-4112 FAX 0575-35-1998 http://www.tokai-kasei.co.jp

ルポ シリーズ 社園さん紹介 No.6 (有)カジムラファーム (福岡県うきは市)

初めてのリモートインタビュー。
オリーブ愛が止まらない根っから熱い梶村和男社長！その社長を支える奥様の晶子さん、未来のカジムラファームを担う梶村建太さん！そして従業員の皆さん。愛にあふれたカジムラファームさんを紹介します。



社長の梶村和男さん



カジムラファームさんの成り立ちは？
梶村社長：「私の祖父が昭和24年に始めて、最初は山林苗の生産でした。昭和39年には梶村農園として園を作り、山林苗の生産から緑化木、コンテナ栽培も始め、17、8年前からは、オリーブの品種にもこだわってDNA鑑定に力を注いだ母樹園を作っています…オリーブの話を始めたら3日は話すことができますよ」(笑)

**まずは社長を支え続けてきた奥様に
奥さまは、どんなお仕事をされているのですか？**

晶子さん：「昔は畑にも出ていましたが、最近は事務担当者が産休を取っているため、総務や経理がメインです。今は福利厚生の一環として毎年恒例の日帰りバスツアーの企画をしているところです。今年はパラ園でしたが、コロナ禍のため延期になりました。女性従業員さんとパートさんが多いので、コミュニケーションを高めることも兼ねて、春と秋に2回程日帰りツアーを行っています。就労時間と同じ9時に出発して、綺麗な花を鑑賞、みんなで大笑いして、美味しいランチを食べて幸せを感じて17時に帰ってきます」



社員旅行の柳川川下り



オタフクナンテンの鉢上げ作業

涼しい朝に就労するサマータイムを活用
晶子さん：「男性はサマータイムを好んで活用しています。夏場は朝6時～12時まで、午後は3時～5時までと夏場専用の仕事を設けています。夏の日中は気温が40℃近くまで上がるので、朝の早い時間は涼しくて仕事はかどおり、お昼は3時間ゆっくり体を休めてもらったり、プライベート時間として有効に使ってもらっています」と。…日帰りバスツアーもサマータイム導入も社長の提案だそうです。

**ベトナムから来たファムさんに
いつから日本に来てどんなお仕事をされているのですか？**

ファムさん：「…日本語まだしゃべれません」と言って建太さんにバトンタッチ。
建太さん：「僕が代弁しますと、一昨年前に人手が足りなくて、ベトナムに行って面接して実習生として日本に来てくれました。ベトナムの田舎町で畑仕事をしてきたファムさんなら、日本でも一緒に頑張ってくれるんじゃないかと思ってお願いしました。昨年5月から採用だったのですが、コロナ禍の影響で、今年2月から実習生としてチャンさんと2人で来てくれました。今は従業員の高浪さんにOJT(先輩社員が実践で知識やノウハウを伝える)をお願いしています。最後にファムさんが「うどんが好き。美味しい。カジムラファームはいい」と片言でニコニコ笑いながら話してくれました。

従業員の高浪さん：どのようなお仕事をされているのですか？

高浪さん：「17、8年前に入社しました。当時は子どもが小さく、熱や学校行事の時には、融通を利かしてくれましたので、今まで続けてこれたのだと思います。今は根巻きもするし、ポット替え、挿し木、草取り、剪定と何でもします。今はベトナムから来ているファムさんとOJTのように一緒に仕事をしています。「言葉があまり通じないので、ジェスチャーで何度も説明するんです。すると何となく分かってくれますし、分からないことは何回も聞いてくれますので、案外大丈夫です」と、高浪さんのコミュニケーション能力の高さを感じました。

従業員の高賀さん：どのようなお仕事を？
高賀さん：「入社から7年経ち、25歳になります。トラックで配達したり、クレーン、ユンボで掘ったり、力仕事や機械での仕事がメインです」



上左から江藤さん、中村さん、ファンさん、チャンさん、西坂さん、次期社長の建太さん
下左から古賀さん、社長の梶村和男さん、善さん、高浪さん、古賀さん、奥様の晶子さん

シャイな古賀さんに替わって
梶村社長：「いやいや、それだけでない。とにかくメカに詳しいんです。会社に13台ある2tトラックや軽トラのオイルやエレメント交換を全てしてくれるし、農業機械、消毒散布機、リフト、小さい機械等合わせて30台近くあるけど、雨で圃場に出れない日は、全てメンテナンスや修理をしてくれるんです。大型特殊免許をはじめ色々な免許をもっているけど、夏時間のお昼の3時間を利用したり、就労後の講習にもここよく行ってきて、本当に頑張り屋さんなんです。いい従業員に恵まれて、感謝です」
趣味も機械や車いじりの古賀さん。週末は2歳になるお嬢さんと公園へ。出来なかった結婚式を5月2日にされたそうです。



5月2日の古賀さんの結婚式

**次期社長の建太さんに
だいぶ息子さんに任せていると社長にお聞きしましたが…？**

建太さん：「私は大学を卒業して、本当は高校の教員になりたく、地元の農業科の非常勤講師をしながら、小さい頃から続けてきた柔道部の指導を1年間していました。その頃、海外でも勉強したくて、農業先進国のオランダに翌年から1年間農業研修に行きました。日本でいう福岡県久留米市のような植木生産地で有名なボスコープという町です。アジサイやクレマチスを生産している会社で、ボスと出稼ぎ同様に来ているポーランド人、ハンガリー人と一緒に仕事を楽しくしていました。まだ植木屋になって9年目です。お客さんからの注文、圃場の管理、従業員のまとめ、仕事の段取りなど全般に任されていますが、たまには父にアドバイスをもらいながら日々をこなしています。最近、先へ先へと考えるのでつついせっかちになってしまって反省しています」



建太さんの趣味のゴルフ ベストスコア75

オリーブのDNA鑑定とは？をご説明します。オリーブのDNA鑑定に始まり母樹園を作るまで



DNA鑑定を始めたきっかけ
「きっかけは、以前、福岡県うきは市長が、「うきは市でもオリーブの実が沢山なるのか試したいから、日本のオリーブ4大品種の苗を提供して欲しい」という相談から始まったのです。そこで全国に問い合わせ品種を探しているうちにオリーブの品種選別は、とても難しいと分かったのですが、私は植木屋のプロとして間違った品種を納品する訳にはいかず、さて、どう品種を調べようかと困っていた時、オランダの花博に行ってきた知人から、展示会でオリーブのDNA品種が出展されていると国際電話が掛かってきて、DNA鑑定なら間違いはないと、すぐにそのオーストラリアの会社から12品種輸入しました。オリーブの品種は、国内のみならず海外生産地のスペイン、イタリア、ギリシャ、オーストラリア、アメリカでも1種1名ではなく、同じ個体でも名称が国によって違っていたり、名称が同じでも個体が違うことがあるようです」

DNA鑑定とは？
「DNA鑑定をするには、判断する条件となるマーカーがあり、どのマーカーを使って調べるかによって判断のクオリティーが違ってきます。例えば人間だと、髪の毛の色、肌の色、性別もマーカーの1つになります。そのマーカーを開発するのに時間とお金が掛かるのですが、建太が在学していた東京農大の先生にDNAの研究所を紹介して頂き、運良く公開論文で10種類ほどのマーカーを見つけることができました。そのマーカーの条件を元に自社母樹園の30種類ほどを検査してもらいました。さらに約400種類のDNA判別が出来るというスペインにも30種類の個体を送り、最初に入れたオーストラリアから輸入したDNA12種類と3カ所での検査結果を照らし合わせた上で、品種の親近性や同一性を推察することが出来ました。とは言っても個人で出来る予算範囲内のことです。20年近くの検査や文献資料を収集した中で、その資料を元に品種の説明が出来るのが、自社の母樹園と苗木です」

新入会員紹介

杉田園

杉田 高歳

大阪府堺市美原区菅生 178-101
TEL 072-361-1610
e-mail sugitaen@gaia.eonet.ne.jp



杉田園ファミリー

この度、本年5月より入会させていただいた大阪府堺市【杉田園】の杉田高歳と申します。現在62歳で2男・3男と共約7000坪・樹木栽培に従事しています。私で3代目です。余談ですが、祖父は農家の6番目として生まれ両親が作りはもうトメタロウで留太郎と命名。が、さらに娘が生まれ、これもトメヨドトメノと命名したそうです。

祖父は結婚独立後、近隣の山畑で主に常緑樹を育て又仕入れて栽培、父・剛は交通網の発達と共に関西圏から東は東海・関東、西は中国・四国・九州へと原木・半完製品を仕入れこれを任せて栽培します。当初は貨車で最寄り駅近くで荷下ろししたそうです。やがて交通手段の発達と共に自前の3輪貨物車800kg積

が非常に増え1m~2.5m物が完売状態で、今春苗木植え付けを例年より増やしました。栽培植え付けをメインとしていますが、まだその風土には利用価値のある国内在来種があるでしょう。崎ドライブイン】の1輪鍋のすき焼きが楽しみでした。この仕事に就き始めた。20歳の頃取り扱う樹木は、いわゆるマ行でマツ・マキ・モクセイ・モチ・モッコク・モミジと他にカシ・サツキくらいでした。やがて30歳中頃から色彩のある斑入り、カラーリーフの輸入物の台頭、それに派生して南半球のオージープランツも加りました。昨今では裸子植物ヤシ科植物が注目され、我園でもブラグ・ポット苗を仕入れコンテナ栽培も始めました。又、昨年来からのコロナ感染の影響で家庭園芸に費やす時間が増え、料理にも楽しみめ役立つ柑橘類の需要

「畑の植木が『今日は此処か?来てくれるのを待ってたんや』とまるで俺に話しかけてくるんや、努力は苦しいけど夢中は楽しい。」と思えるくらいこれからの愛着を持ち、地球温暖化・脱炭素が叫ばれる中、少しでも空気浄化の一役を担っていると思いたいと思えます。最後にコロナ感染拡大の折、皆様には健康管理に配慮し従事して頂



赤松



コンテナ栽培



八房五葉松



グレビレア・フォレストランブラー

日本列島植木植物園 ナショナルプランツ コレクション*

◎若林芳樹(株)アスコット(賛助会員 神奈川県) ☎045-222-0215

シモツケ属 *Spiraea L.*

バラ科シモツケ属の樹木は、落葉低木で花は早春から初夏にかけて開花します。日本には10種ほど自生していますが、中国などから数種渡来しており、古くから親しまれています。

シモツケとホザキシモツケ以外はすべて白花で彩りに欠ける面はありますが、春の花木としては無くてはならない樹種といえます。

一般に広く利用されている樹種は、コデマリ、シモツケ、ユキヤナギなどですが、ガーデニングが盛んになるとともに、コデマリの八重咲きや斑入品種、シモツケの白花や赤花・カラーリーフの品種、ユキヤナギのピンク花の品種など個性的な樹種も使われるようになってきています。

また、植物園的な樹種として、イワガサ、シジミバナ、トサシモツケ、ホザキシモツケ、ホソバノイブキシモツケなどがあり、たまに見かけることがあります。

なお、最近見かけた樹種に黄金葉コデマリ「ゴールドファウンテン」があります。コデマリとトリロバタ種(*Spiraea trilobata*)との交雑種で、黄金色の新葉とコデマリに似た白い花の取り合わせが魅力的で、新しい樹種の一つとして利用が期待されます。なお、同じ交雑種に斑入品種もあります。

最後になりますが、弊社は樹名札の制作会社です。樹名札に用いる植物写真のコレクションから本稿を執筆しました。樹木のナショナルプランツコレクションはありません。



コデマリ



コデマリ交雑種(斑入品種)



コデマリ八重咲



シモツケ



シモツケ白花



シモツケ赤花



シモツケ源平



シモツケ黄斑



ユキヤナギ、プジノピンキー!



イワガサ



シジミバナ



トサシモツケ



ホザキシモツケ



ホソバノイブキシモツケ



黄金葉コデマリ、ゴールドファウンテン

*ナショナルプランツ コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立つ事を目的としたコレクションです。

特集 「希少植物と緑化木」 猪上信義 (元福岡県森林林業技術センター研究員)

チョウジガマズミ *Viburnum carlesii* Hemsl. var. *bitchiense* (Makino) Nakai

チョウジガマズミはスイカズラ科*の落葉低木で、日本では中国地方の岡山、広島、島根、四国の香川、愛媛、それに九州では福岡県に自生することが知られ、朝鮮半島にも分布するという^(1,2,4)。生育場所は石灰岩地の急斜面岩壁が多く、稀に海岸の岩場にも見られる。なお変種名の *bitchiense* は1902年に岡山県で最初に発見されたことにちなんでいる⁽⁴⁾。



西麓から見た塔ヶ峰

と、樹高は1~3mくらい、樹皮は灰褐色で縦に裂け目が入る。冬芽は裸芽で、若い枝には細かい星状毛がある。葉は対生し、広卵形~楕円形、長さ4~8cm、両面ともに星状毛が密生し、縁には低い鋸歯がある。花は4月下旬~5月上旬頃、集散花序で頂生、花冠は白色で外側がピンク色を帯び芳香がある(右写真 チョウジガマズミの花)。果実は長さ7~10mm、長楕円形で扁平、9~10月頃黒熟する^(1,2)。なお和名は花の形が香料のチョウジ(フトモモ科高木)に似ることによる。

福岡県では県北東部の平尾台(台上の草原ではなく、ドリーネの斜面や北部の塔ヶ峰(写真 西麓から見た塔ヶ峰)や南部の龍ヶ鼻などの低木林)と香春岳の石灰岩地岩峰や岩壁に限って、稀に生育している。しかも自生地の一部が石灰石採掘のため開発されている箇所もあり、県の絶滅危惧植物に指定されている。

このような石灰岩地はアルカリ性土壌のため、他では見られない特殊な植物が生育することが知られている。福岡県内で上記他(県中央部の古処山など)の石灰岩地に限って生育する主な植物をあげると、シダ植物ではキドイノモトソウ、クモノスダ、タチデンド、キンモウワラビなど、種子植物ではイワシデ、ミヤマイラクサ、ミヤコミズ、シロバナハンショウヅル、バイカウツギ、オニシバリ、キビノクロウメドキ、イワツクバネウツギ、マルバサンキライそれに本種などである^(3,6)。

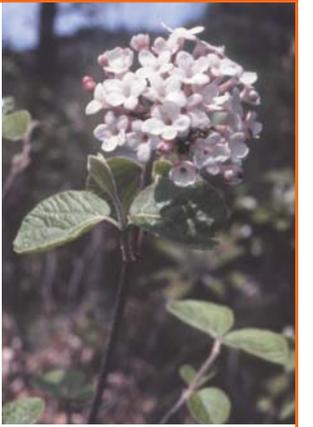
ここでチョウジガマズミの形態を簡単に紹介する

基本種オオチョウジガマズミ(-var. *carlesii*)は葉がやや大きく、雄蕊が花筒の中程につき、対馬と朝鮮半島に分布するということが^(2,4)、この識別は難しく、同一種とすべきという説もある⁽¹⁾。

この花は美しくしかも芳香があるため、稀に観賞用として栽培されるが、花期が極めて短い(約一週間)こと、葉をハムシ類に食害されやすいこと、植栽環境を考慮する必要があるなど問題点も多く、あまり一般化していない。

小生も以前勤めていた研究所で栽培を試みたことがある。当時は市販の苗が手に入らないため、野生種からの実生である。しかし発芽には2年を要し、その後の成長も極めて遅く、ようやく開花し始めたころから衰弱し、数年で枯損してしまった経験があ

る。当時はその原因に思い至らなかったが、今になって考えると植栽地には水田土壌が客土されていて、土のpHがかなり酸性に傾いていたことと養分過多が問題だったと思われる。そのため弱アルカリ性の土壌や貧栄養に耐えるチョウジガマズミには荷が重かったようである。それを知っていれば苦土石灰などでpHの調整を図り、川砂などで土壌栄養を薄めたのにと思っている。



先ほども触れたが、落葉性のガマズミ類の実生は種子を乾燥させないなど適切な処置を行っても発芽は2年目の春以降になる⁽⁵⁾。さらに自生地でも花はよく咲くが、結実したものはあまりお目にかかれないので、実生よりも挿し木や接ぎ木などでの増殖が効率的かもしれない。しかしこの方面の知識は小生には持ち合わせがないので、実施経験のある方のご教示をいただければ幸いである。

引用文献

- (1) 倉田悟(1976) 原色日本林業樹木図鑑5:地球社
- (2) 佐竹義輔他編(1989)日本の野生植物木本II:平凡社
- (3) 筒井貞雄(1988)福岡県植物目録(1)シダ植物:福岡植物研究会
- (4) Hara,H(1983) A Revision Caprifoliaceae of Japan with Reference to Allied Plants in Other Districts and the Adoxaceae:Academia Scientific Book Inc.
- (5) 山中寅文(1975)植物の実生と育て方:誠文堂新光社
- (6) 吉岡重夫(1964)北九州市の植物:北九州植物友の会

*現在主流となっているAPG分類体系(II)ではレンブクソウ科に含まれているが、この分類体系は今もなお進化中であり(現在V)、ここでは従前のエングラケ科に従う。



特集 竹はポピュラー、なれど不思議な植物 ⑮ 竹による緑環境の創造と期待 最終回

渡邊政俊

◆プロフィール

1933年 富山県生まれ。京都外国語短期大学卒。1951~1991年京都大学農学部附属演習林文部技官。この間、故上田弘一郎京大名誉教授の研究を手伝う。1986年九州大学農学博士。1992~2002年(隔年)高知大学農学部非常勤講師。1993年以降林野庁の特用林産ビジョン検討委員会委員など竹・タケノコ関連事業委員を歴任。元国際協力機構(JICA)専門家(1970~72年タイ、1994、95、97年インドネシア、1996年チリ)。現在、竹文化振興協会専門員、京都市洛西竹林公園専門員。

古代の人々は竹の空洞には呪力や霊力が宿り、ある種の宗教的な尊厳を抱いていたともいわれ(沖浦1991)、現在、たとえば地鎮祭ではさら地に4本の枝葉を付けた青竹を立て、御幣を吊した注連縄で囲んだ祭壇を設け、そのエリアの邪気を払って神の降臨を仰ぎ、工事の安全を祈願する神事も古代の人々の信仰に起因するのではないだろうか(写真①)。

すなわち、竹は日本人の生活の根源にある信仰心のなかで生き続けてきた植物でもあり、空洞のある緑の竹、そして四季を通じて多様な景観をみせる竹は、現代でも日本人の生活と共に生き、緑環境を創造する植物なのである。

「京都は歴史への門である」をコンセプトに1997(平成9)年に改築されたJR京都駅には屋上植栽エリア(11階:320㎡)が創設されていて、京都市内が一望できる広大な芝生エリアがある。そして、その周りにはモウソウチクの選抜育種によるヒメアケボノモウソウ(小林・若山 2020)が24個の大型

プランター(各1坪)に植栽・設置されている(写真②)。ただ、市民や旅行者には意外に気付かないのか、ひっそりとした憩いの場となっているのが残念である。

さて、これまで「竹はポピュラー、なれど不思議な植物」をメインテーマに拙稿を執筆させていただいてきたが、確かに竹は本当にポピュラーに広く、いろいろな場所で見掛ける。ここで、京都市内にみられるほっとするような竹類の植栽例をいくつかご紹介したい。

まず、高層ビルと広い大通りの歩道との間の狭い空間に植栽された竹類のある景観には、何となく優しさのような感が湧く。ガラス張りでキラキラする商社ビルと歩道との間にモウソウチクが植えられ、下層がクマザサで覆われた景観には、安堵感のような感情が湧く(写真③左)。また、3階建ての研究施設だが、歩道に添ってマダケの小径竹にコグマザサを下層に約120mにわたって植栽した景観は和みを感じられる(写真③中)。一方、京都市内のホテルではよく竹が植栽されていて、たとえばNホテルでは玄関に至るアプローチに添って幅1m程度の空間にクロチクが約50m列植されており、ホテル内の様子が見えにくいシャドーの役割を演出している(写真③右)。



写真① 地鎮祭(長岡銘竹株式会社提供)



写真② JR京都駅屋上の芝生の広場と竹の植栽



写真③ (左) 商社ビルの歩道側植栽 (中) 公的大型建造物の歩道側植栽 (右) ホテル玄関側のシャドー植栽



写真④ (左) コーヒーショップのシャドー植栽 (中) バス停に面するレストランの植栽 (右) ワンポイント植栽

のある景観は意外な役割を演じているケースが多い。一般には、道路に面したレストランやコーヒーショップの窓際には中径種で黒い程が特徴のクロチクをシャドー列植したケースなどが多い(写真④左)。そうかと思うと、常時乗降者の多いバス停に面した名高いレストランでは、歩道のフェンス内に大型のモウソウチクを植栽して、その名高いレストランの存在を見え難くした例(写真④中)や、派手な照明の小さいコーヒーショップでは、その狭い入り口の空間に低い庭木と大型のモウソウチクをワンポイント的に植栽している例(写真④右)があるなど、造園的には竹類の特徴が巧みに利用されていることに気付く。

このように、竹類は人々の生活に潤いを与え、そして広義に緑環境の創造に貴重な役割を演じている植物であり、これからも植木づくりを生業とされる会員各位が竹を育て、竹を植え、竹を愛していただくことを期待してやまない。

謝辞

本拙稿をもって「竹はポピュラー、なれど不思議な植物」の連載を終えるにあたり、15回も連載させて頂いた一般社団法人日本植木協会の関係者ならびに読者の皆様から心から謝意を表すものである。

引用文献

- 沖浦和光(1991)竹の民俗誌 一日本文化の深層を探る。岩波新書187。
- 小林幹夫・若山太郎(2020) 竹文化振興協会 竹144号:4-7。

また、何気なく見る竹

お知らせ

令和3年度 都道府県別供給可能量調査 開始案内

全支部の提出に向けて協力をお願いします。
調査期間：令和3年7月1日(木)～7月31日(土)
※調査結果は官公庁及び造園関係団体にCD配布し、協会ホームページでも公開し、材料調達時の参考にしていただいています。

令和3年度 社園別生産数量調査 開始案内

全社園様の提出に向けて協力をお願いします。
調査期間：令和3年6月25日(金)～7月20日(火)
①協会ホームページの会員ページにログインし、IDとパスワードを入力し、社園別生産数量調査入力用システムをダウンロードします。
②データを入力します。
③データ入力完了後アップロード送信します。
※詳細については緑化通信6月号に別紙「入力マニュアル」を同封していますのでご確認ください。

生産数量調査代行入力について

生産数量調査について、エコスに代行入力をお願いすることも可能です。代行入力は有償となっております。料金の目安は70円/件、及び結果資料の送付料金等となります。希望される方は、下記に電話又はメールをしていただければ、作業詳細書及び入力シートが送付されます。

エコス 大島 寿裕
(Tel)045-309-0018 (Mail)sp_ohata@daiary.ocn.ne.jp

植生アドバイザー育成リモートオープン講座

毎年8月末に群馬県川場村で実施しています植生アドバイザー育成講座は、新型コロナウイルス感染症防止を最優先し、中止といたしました。

その代替として植生アドバイザー育成の導入・復習講座を設置し、Zoomを使ったリモート講座を広く開放することになりました。参加は無料です。

講座は各90分のコマで網羅し、大変分かりやすい内容となっております。植生管理士資格に興味のある方、過去に講座に参加し復習したい方等の参加を募ります。

- 1. 日時：令和3年8月28日(土) 12:30～17:00
2. 内容：12:30～14:00「A 植生調査基礎コース」
14:00～15:30「B 植生景観調査基礎コース」
15:30～17:00「C 植生復元・モニタリングコース」
3. 講師：植生学の専門家の先生方が講習いたします。
4. 受講料：無料
5. 参加方法：協会事務局 木谷宛にE-mail(kitani@ueki.or.jp)又は電話(03-3586-7361)

会員動向

新入会員

- ▷杉田園(大阪府) 杉田高歳
〒587-0041 大阪府堺市美原区菅生178-101
TEL 072-361-1610 FAX 072-361-1810
e-mail sugitaen@gaia.eonet.ne.jp
▷(有)小川産業(千葉県) 小川安都志
〒283-0104 千葉県山武郡九十九里町片貝6509-71
TEL 0438-36-6141 FAX 0438-36-6173
e-mail ogawasangyo@gmail.com
http://www.ogawasangyo.net
▷(有)エヌ・アール・ティーガーデンプロダクツ(千葉県) 寒郡茂樹
〒286-0221 千葉県富里市七栄525-31
TEL 0476-92-9410 FAX 0476-93-6812
e-mail shigeki@hortbusiness.jp

社園名・代表者等変更

- ▷(新)株山佐の庭(静岡県) (旧)ヤマサ種苗園
新代表者 江間隆文
info@yamasanoniwa.com www.yamasanoniwa.com

代表者・メールアドレス変更

- ▷(新)中野敏夫 宮川森林組合(三重県)
sugiura@miyashin.or.jp (担当:杉浦明伸)

メールアドレス変更

- ▷石川緑樹(株)(新潟県) a-ishikawa@ryokujyu.jp

社園名変更

- ▷(新)安藤山林緑化(株)(北海道) (旧)安藤山林緑化(有)

代表者変更

- ▷須藤 秀治 (株)グリーンラボ(福島県)

FAX 変更

- ▷大門園(千葉県) FAX 0439-32-1019

訃報

- ▷赤司 勲 様(赤司暢由氏のご尊父様)
赤司花木園(福岡県) 令和3年4月没
▷熊島文男 様(熊島文市氏のご尊父様)
カネフジ種苗園(新潟県)
令和3年5月21日没 享年93歳

お詫び

第485号にて、青年部会の総会記念講演での質問者のお名前が旧姓でした。石井萌恵(旧姓佐藤)氏です。大変申し訳ございませんでした。

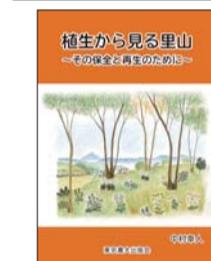
植生調査委員会

新刊書「植生から見る里山」を出版

東京農業大学名誉教授 中村 幸人 先生

東京農業大学名誉教授の中村幸人先生が新刊書「植生から見る里山」を出版されました。中村先生には植生調査委員会と東京農業大学の共催による植生アドバイザー育成講座、植生管理士認定試験を主導していただいております。また、コンテ

世界共通目標のSDGs(持続可能な開発目標)の一つである気候変動の影響を軽減するには、地球環境の保全が大切です。そのために中村先生は人と自然の共生、生物多様性を併せ持つシステムとして「里山」に注目し、紹介されています。縄文・弥生時代から続く「里山」は時代の変化に応じて発展してきましたが、気候帯や地形など地域の特性に応じて多様な植生を形成しています。今後も人と自然の共生を維持していくには「里山」にヒントが多く詰まっております。「里山」の知恵を活用することを力説されておられます。この本では至るところに先生の似顔絵イラストが登場し、重要なポイントをアドバイスしています。イラストは先生の奥様が描かれたこのエピソードも興味深いものです。本の定価は1760円



(税込)で申し込みは協会事務局または東京農大出版会(TEL:03-5477-2666)まで。協会ホームページの出版物コーナーでは東京農大出版会のリンクが付いてますのでご利用ください。

日本列島植木植物園

ナショナルプランツ コレクション*

◎山崎隆雄 (株)ワイズプランツ(埼玉県) ☎048-875-2155

ウツギと名のつく樹木

「卯の花腐し」は初夏の季語で、「五月雨」へと移ろいをあらわします。旧暦の卯月に咲くウツギは「卯の花」と呼ばれ、この頃に走り梅雨を迎えることから、花を台無しにする長雨を憂いたことから詠まれたと言われています。ウツギは、北海道から南西諸島まで自生地の分布域が広く、よく畑などの境界木などとして利用され、身近に慣れ親しんだ樹木の一つです。傍らにある、ウツギと名のつく樹木は、およそ6科11属にも亘っています。
アジサイ科：ウツギ属・アジサイ属・バイカウツギ属
スイカズラ科：タニウツギ属・ツクバネウツギ属・ショウキウツギ属・イワツクバネウツギ属
フジウツギ科：フジウツギ属 ミツバウツギ科：ミツバウツギ属
バラ科：コゴメウツギ属 ドクウツギ科：ドクウツギ属



ウツギ Deutzia crenata



コゴメウツギ Stephanandra incisa



ショウキウツギ Kolkwitzia amabilis



タニウツギ Weigela hortensis



ツクバネウツギ Abelia spathulata



ドクウツギ Coriaria japonica



ノリウツギ Hydrangea paniculata



バイカウツギ Philadelphus satsumi



フサフジウツギ Buddleja davidii



ミツバウツギ Staphylea bumalda

*ナショナルプランツ コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。